

百人一首を書きましよう。

嘆きつつひとり寝る夜の明くる間は

いかに久しきものとかは知る

【現代語訳】

貴方が居ないのを嘆きながら一人で寝る、夜が明けるまでの時間がどれほど長いものか、貴方はおわかりにならないでしょう。

右大将道綱母

忘れじのゆく末まではかたければ

今日を限りの命ともがな

【現代語訳】

貴方は「決して忘れまい」とおっしゃいますが、いつまでも心変わりしないなどありえないでしょうから、お逢いできた今日を最後とする私の命であって欲しいのです。

儀同三司母

滝の音は絶えて久しくなりぬれど

名こそ流れてなほ聞こえけれ

【現代語訳】

滝の音は聞こえなくなっから長い年月が経ってしまったけれど、その名声は今でも世間に流れ伝わり聞こえてくる。

大納言公任

あらざらむこの世のほかの思ひ出に

いまひとたびの逢ふこともがな

【現代語訳】

私はまもなく死んでしまおうでしょうが、あの世への思い出として、せめてもう一度貴方にお逢いしとうございます。

和泉式部